

故郷のお話（佐賀） 東條保子

1. 楠の青葉を 吹きならし
海こえ来る 朝の風
夕はあふぐ 天山の
山なみさして 雲かへる

4. ああいざさらば わが友よ
日本の栄え 求めつつ
世界の平和 祈りつつ
力ためさむ この生命

青天にいまも息づく
葉隠れの心 佐賀

日本再発見紀行第3集

東條保子

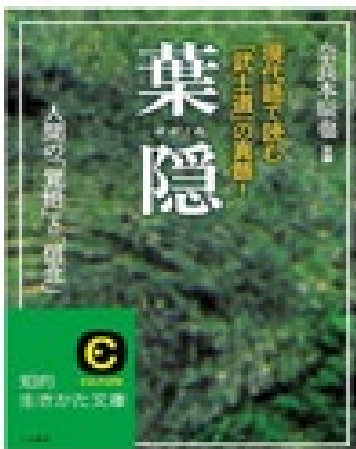


武士道の真髄——『葉隠』を読む人のために 9

- ▽人間の「覚悟」と「信念」の書——『葉隠』の魅力 9
- ▽「武士道」そのままに生きた、山本常朝つねともの生涯 12
- ▽『葉隠』という書名が生まれた背景 21
- ▽すべては、最高に生きる。ための知恵 24

1章

いかに「生きる」か



- ▽『葉隠』——鍋島家が「他家に勝る家柄となった」理
- ▽「七度生まれ変わるならば、七度とも当藩に生まれな

2章

いかに「覚悟する」か

- ▽一つの極意——「その日を最期」と定める 40
- ▽武士とは「死物狂いになる者」のこと 44